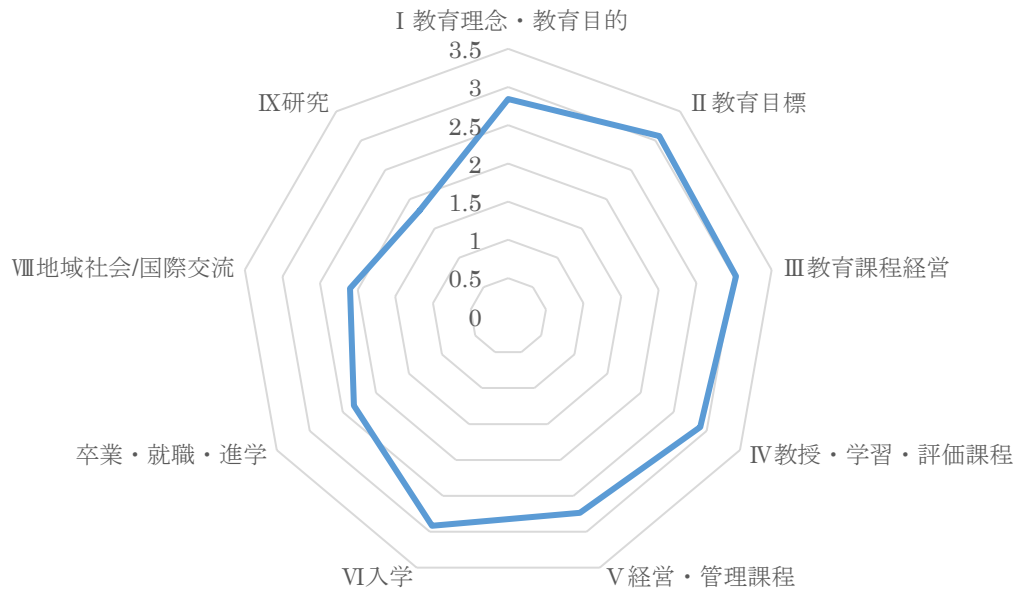


2018年度 愛生会看護専門学校 自己点検・自己評価

平成23年3月、厚生労働省の「看護師等養成所の運営に関する指導要領」の改正により、看護師養成所は教育活動その他の養成所運営の状況について自己点検・自己評価を行い、その結果を公表することとなりました。本校においては平成30年に学校自己評価委員会を立ち上げ、厚生労働省から示された「看護師養成所の教育活動などに関する自己評価指針」に基づいて評価を行ったので、以下に報告します。



I 教育理念・教育目的 (2.8)

教育理念・教育目的を明確に掲げ、学生便覧に記載し学内外に示している。また入学ガイダンス、学年ガイダンスではこれらに加え、各学年の到達目標、教育課程、学則等を説明し、学修及び教育の指針とし、教職員が教育理念・教育目標を念頭においた一貫性のある教育を実践していくことが重要である。しかし質を保証するための教育方法、環境が述べられていないことが課題である。

II 教育目標 (3.1)

教育理念・教育目的をもとに、教育目標を8つ掲げ、その目標ごとに明確に学年到達目標を設定している。しかし、学年の枠を超えて目標を達成している学生もおり、今後学年到達目標にとらわれない、卒業後を見据えた学生個々の成長を促すような目標を作成していくことが課題である。

III 教育課程経営 (3.0)

単位認定に必要な方法や基準は明確である。しかし、学校評価委員会の活動が明確にされておらず、機能していない状況のため、次年度は委員会活動を明らかにする。

前回のカリキュラム改正から年数を経ているため、現行の教育課程編成について教育理念・教育目的、教育目標との整合性があるか見直し、現状に即した教育課程編成について今後検討していく。

教育の質を保証するために、長期的な展望のもと、それぞれの教員が研鑽できるような環境やシステムの構築を図る。

<p>IV 教授・学習・評価過程 (2.9)</p>
<p>教育理念・教育目標との一貫性を意識した共通のシラバスを作成して学生、教員間で統一、共有することはできているが、科目間の授業内容の重複や整合性、発展性などが明確になっていない。</p> <p>シラバス内には単位認定のための評価基準と方法は公表されており、特に実習ではルーブリック表を用い、明確な評価基準を実習要綱に掲載している。公平性を保つための評価基準になるよう、今後も評価、修正を繰り返していく必要がある。</p> <p>本校では、入学前の補完授業や、定期的に開催する学習会が効果を上げている。また学生が学び方を習得し、自律して学習できるよう様々な方略を取り入れた授業の構築に努めている。</p>
<p>V 経営・管理過程 (2.7)</p>
<p>学校設立後定員を増員した際に、途中改築を行い、学習環境を整備した。今後もよりよい学習環境、安全で快適な環境を維持できるよう、施設整備をしていく必要がある。</p> <p>学生生活の支援については、保護者会、授業参観の実施により保護者との連絡を密にしている。本校は社会医療法人が経営している看護学校であるため、奨学金の貸与により経済的支援を行っている。</p>
<p>VI 入学 (2.9)</p>
<p>入学試験に関する規程を定め、教育理念の「人間の豊かさと専門知識を学び看護の基礎能力」に基づき社会・地域に貢献できる人材を育成するために、入学者選抜方法や評価について妥当性・公平性を確保している。ただ、今後社会情勢等に踏まえて入学者選抜方法を検証していく必要がある。</p> <p>オープンキャンパス、病院見学、近隣・在校生の高校訪問、ホームページ、学校パンフレット、募集要項などの広報活動が入学生の確保につながっている。今後も質の高い学生確保のために、広報活動のさらなる工夫が必要である。</p>
<p>VII 卒業・就職・進学 (2.3)</p>
<p>看護技術の技術経験録、臨床指導者会議資料、各看護学のとまとめ資料を基に同法人内の病院と共有している。卒業までの学生数の変動（留年、休学、退学等）の状況、国家試験の合格状況について年次推移を捉え、周辺地域の人材確保に貢献している。卒業後の活動状況については、法人内の病院とのコラボ研修を通して共有し、卒業後の状況調査・分析に取り組んでいる。</p>
<p>VIII 地域社会／国際交流 (2.1)</p>
<p>同法人内の病院や学校の行事、ボランティア活動、地域空港での合同訓練参加、高校訪問、進路相談などの機会を通じ、様々な視点から地域のニーズを把握し、学校運営に反映させている。行事やホームページを活用して地域への情報発信を行い、自己点検・自己評価を実施し、公表できている。また、教員のインターンシップや教育実習を積極的に受けている。国際交流は、国際的視野を広げるための外国語の習得を目指し、英語を学ぶように設定している。また実習病院において外国人患者を受け持つ機会も増えており、異文化を尊重できるように取り組んでいる。</p>
<p>IX 研究 (1.8)</p>
<p>個々の教員で専門領域の学会等に所属しているが、研究活動には至っていない。今後、研究活動のための体制を整えていく必要がある。</p>